

はっとい院長の健康トーク Vol.5



金沢市大友1丁目109番地
はっとい大腸肛門クリニック
服部 和伸
076-238-8101

痔瘻・裂肛の治療について

今回は痔瘻(あな痔)や裂肛(きれ痔)の治療についてお話しします

痔瘻 (じろう)

肛門腺の感染が原因です。長期間放置をすれば肛門癌の原因となることもわかってきました。そのため治療はこの感染した肛門腺を切除することが必要です。化膿が強く、肛門周囲膿瘍となっている場合はまず膿瘍の切開をします。膿瘍は沼であり、切開は水門を作ることにあたります。水門からの排膿により膿瘍という沼は縮小し、細い小川となります。つまり、切開により次の根治手術が安全にできるようになります。切開した膿瘍は痔瘻といい、数カ月後に根治手術を行います。この手術は瘻管(細い小川)の位置によって異なってきます。

浅い場合は小川をそのまま切開すれば良いのですが、小川の位置が深い場合はそのまま切開すると便が漏れるようになります。小川が前方や側方にある場合はそのまま切開すれば肛門が変形することがあります。そのような場合には後に障害が残らず、しかも再発しない手術が必要になります。

現在私が行っている手術はイギリスのパークス先生が始められた術式で、ここに留学していた立川共済病院の守谷先生から指導を受けました。さらに最近では形成外科的手法を使用し、変形のない、しかも治療期間の短い手術を行っています。

また難治性痔瘻のなかには腸疾患が原因でできるものもあるので、大腸の検査も必要になります。

裂肛 (れっこう)

肛門管にできた創が痛みのために、なかなか治らない病気です。治療法は肛門括約筋(便が漏れないように肛門をたえず締めている筋肉)の緊張の程度によってちがってきます。

肛門括約筋が緊張していない裂肛では内服薬・軟膏・坐薬の使用が有効です。肛門括約筋が緊張している裂肛の場合は、この筋肉の緊張を取り除かなければならないので、この筋肉の一部を切開します。

裂肛が長期化し、ポリープができている場合は手術でポリープを含めて裂肛を切除することになります。早期に受診いただければ、ほとんどの方は括約筋の切開で済むと思いますし、この切開は入院の必要はありません。

最近、欧米で切開が必要なほど肛門括約筋が緊張しているときにでも効果がある軟膏が開発されました。希望の方はこの軟膏の使用もできます。

治療は早く始めるほど早く治ります。肛門に痛みなど、何か変わった症状があれば、すぐに肛門科の診察を受けられることをおすすめします。